

目黒の未来に、

無責任でありたくない!

かいでん 和弘

かずひろ

無所属 25歳

◆ 2019年1月14日発行

プロフィール

1993年●11月23日生まれ(25歳)

2006年●目黒区立原町小学校 卒業

2012年●都立桜修館中等教育学校 卒業
(旧 都立大学附属高校)

2016年●北海道大学 法学部(政治学専攻) 卒業

2016年●民間のコンサルティング会社 就職
市区町村の調査・行政計画策定やPR
業務に携わる。

特技・趣味 チェロ演奏、剣道(2段)

好きなもの 野球観戦、水泳、読書、クラシック
音楽、旅行、鉄道、歴史研究

Theme 同世代の皆さんに考えてほしいこと

こんにちは。「目黒の未来に、無責任でありたくない!」を

スローガンに活動しております、無所属、25歳の

改田 和弘(かいでん かずひろ)と申します。

唐突ですが、25歳の私から同世代の皆さんに考えてほしい
ことがあります。

それは「選挙」について、

そして「自分たちの未来」についてです。

選挙、行きますか？

3か月後の4月21日(日)、目黒区議選が行われます。

皆さんのなかには、

「区議会議員が何をしているか知らないし、興味ない」

「投票したところで何も変わらないし、行く意味がない」

そんな風に思う方もいらっしゃるかもしれません。

実際、若者の投票率はかなり低いです。

《前回の目黒区議選の投票率》(2015年)

20代 20.9% (10人に8人は投票しない)

30代 28.5% 70代 54.0%

この投票率を見て、平均年齢54歳の目黒区議はどう考
えられますか？

間違いなく、こう思うはずですよ。

「当選するため、投票により行ってくれる高齢者を優遇す
る政策を訴えよう。若者向けの施策は力を入れなくてもい
いだろう。」

《参考》目黒区議会議員選挙の投票率(2015年)

20代	20.9 %
└前半	22.0 %
└後半	20.3 %
30代	28.5 %
40代	37.3 %
50代	44.7 %
60代	54.7 %
70代~	54.0 %
全体	39.3 %

「選挙は、行っても行かなくても結果は変わらない」
私も以前は、そう思っていました。

選挙は、「一人の一票だけで、全体の結果を左右できるもの
でない」ことは事実です。でもだからといって、

「自分の一票が選挙結果にほとんど影響を与えないから」
といって投票に行かないのは“もったいない”と、私は思
います。

区議会の仕事

そもそも区議会は、次の選挙までの4年のあいだ、目黒区
の予算(=お金)の使い道を決定するのが仕事です。

そして36人の個々の議員によって、高齢者を重視する人
や、若者向けに予算を配分したい人など考え方は様々です。
そのときに、どの候補の予算の使い方を支持するかを意思
表示できるただ一度のチャンスが、「選挙」なのです。

今のように若者が投票しないと、高齢者向けの政策を手厚
くする議員ばかりになってしまいます。



一票の価値は、〇〇〇万円？

仮に、一票の価値を計算してみましょう。

今後4年間の目黒区の予算額(推計では4,003億円)を、目黒区の有権者数(23万6千人)で割ると、

一人当たりの4年間の予算額は **169万円** となります。

つまり、“区議選において投票する”ということは、“169万円分の予算配分を託す人を決めること”といえます。

すなわち間接的ですが、皆さんはその一票で169万円分の価値をもった意思表示ができるのです。

169万円。大金じゃないですか。

投票所まで行って帰って、わずかに2,30分の労をかければ、169万円分の意見を目黒区政に対して伝えられるのです。

現在の民主主義社会において、デモに参加するよりも、ネットやSNSへ書き込むよりも、友達とグチを言い合うよりもよっぽど、選挙は自分の意見を政治にぶつける**効果的かつ生産的なチャンス**なのです。

自分たちの未来のために、投票に行きましょう。

目黒区の未来は厳しい

とはいえ、皆さんは、今の目黒区での生活に対して、基本的には満足しているんじゃないでしょうか。治安が良く、ブランドイメージもあって、交通の便がいい。

このままの目黒区が将来もそのまま続くのであれば、わざわざ意思表示なんてしなくてもいいかもしれません。

ところが、私たちの未来はそう甘くはありません。

目黒区でも高齢化が急激に進んでいきます。今後30年間で、20代から40代の人口が5千人以上減る一方、65歳以上の高齢者が1万9千人も増えます。

多くの高齢者を少ない中心世代が支えていくのですから、残念ながら目黒区には、今よりも負担の重い、厳しい未来が待っています。

それなのに、今の区議会に、未来を担う若い人の意見は届いていません。投票率も低い。20代の区議もいない。

私たちは、今のうちに思いを伝えなくてはなりません。若者の投票率を上げて、政治家に、厳しい時代を支える我々のことも考えてもらう必要があります。

だから、

私は…

将来の当事者世代である若い人の思いが届いていない、この現状が悔しいのです。

政治家が目先のことしか考えず、目黒区の将来については後の世代に丸投げしているのが、悔しいのです。

そして若い私たちが、その現状に対して声を上げず、行動を起こさず、黙認していたのが、最も悔しかったのです。

だから私は、会社を退職し、自ら声を上げることにしました。

目黒区政と若者との“架け橋”となって、若い人の思いや意見を、直接届けていきたい。

将来の目黒区の当事者世代として、未来を見据えた長期的な視野を持ち区政運営を行っていきたい。

私は、目黒区の未来に無責任でいたくありません。



後援会

かいでん応援団

〒152-0013 東京都目黒区南1-1-11

☎ 090-3145-1156

✉ kazukaiden@gmail.com

HP・フェイスブックにて、活動記録を公開中です。

ラインからもお問い合わせ可能です。

かいでん和弘

検索

<https://www.kazu-kaiden.com>

